



編集後記・奥付

著者	小林 稔
雑誌名	和光経済
巻	51
号	1
ページ	66-66
発行年	2019-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1073/00004724/

編集後記

今年は、11月の半ばになっても暖かい日が続き、大学のある東京では日中は上着も必要がなかったくらいである。最近、異常気象とか地球温暖化という言葉をよく耳にする。最近の気候を考えてみると確かに感覚的には、地球温暖化という気がしている。しかし、2015年にイギリスのウェールズで開催された英国王立天文学会総会で、今後は太陽の活動が減退して、2030年までに地球はミニ氷河期に入るという予測が発表されている。さらに、2016年には、ロシア科学アカデミー会員であり、ロシア・プルコヴォ天文台の宇宙研究所所長であるハビブッロ・アブドゥッサマトフ博士が、「ミニ氷河期は2015年の終わりにすでに始まった」とする論文を公開している。つまり、地球は温暖化どころか新たな氷河期に入っているということである。これらの主張は、信用のある研究者が太陽の活動を科学的に研究した結果として公開されたものであるからその信頼性が高いことは疑う余地はないだろう。

このように今年の東京は11月半ばになっても暑かったのだが、地球全体でみれば、すでにミニ氷河期に入っているということなのだろう。ものの見方や時間を考える場合は、そのスケールが大切であることに気付かされる。経済学には、マクロ経済学、ミクロ経済学があるのと同じように、ある事象を考える時には、スケール感が大切なのである。2018年11月の東京は平年より暑い日が続いて地球温暖化のように感じるが、地球全体で10年という比較的長期の時間のスケールで考えれば地球はミニ氷河期に向かっているということなのである。木を見て森を見ず、これではものごとの本質は見えない。現在の社会、経済、産業・企業、政治の動向をみる時にも同じことが言えるだろう。

さて、遅くなりましたが和光経済第51巻1号をお届けいたします。本号は、上野正男先生の追悼号となります。先生との思い出や最新の研究成果が盛り込まれた学術論文が掲載されています。寄稿いただいた先生方には、深く御礼を申し上げます。次号も引き続き、先生方の玉稿をお待ちしております。

最後になりますが、上野正男先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(2018年11月 小林 稔 記)

和光経済 第51巻第1号

2019年1月25日 印刷

2019年1月31日 発行

発行者 鈴木 岩 行

制作 八 千 代 出 版

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-2-13

発行所 和光大学社会経済研究所

〒195-8585 東京都町田市金井町 2160